

ナシ「甘太」の収穫適期

福島県農業総合センター 果樹研究所 栽培科

部門名 果樹－ナシ－品種

担当者 佐藤寛人、吉田小夏

I 新技術の解説

1 要旨

ナシ「甘太」は、糖度が高く、食味が良好な晩生品種である。本県のナシ産地で導入が進んでいるが、収穫適期の判断が難しく課題となっている。そこで、2023年及び2024年に果実品質を調査したところ、収穫適期は無袋栽培では地色指数が2～3となる満開後165～175日頃で、有袋栽培も同様の時期と判断された。

- (1) 無袋栽培は、ていあ部の地色指数（農林水産省果樹試験場基準ニホンナシ地色用カラーチャート値）が3を超えると硬度が4lbs.を下回り（図1）、シャリ感が失われ食味を損なう傾向にあるため、硬度が4～5lbs.で、地色指数が2～3での収穫が望ましく、収穫適期は満開後165～175日頃と考えられる。
- (2) 有袋栽培（白色一重袋（遮光率18%）を満開後50日頃に被袋）の収穫適期は、食味等の総合的な判断から、無袋栽培と同様に満開後165～175日頃と考えられる。
- (3) 果実品質は、無袋栽培で果実重が大きく、有袋栽培で糖度が高い傾向が見られる（表1）。
- (4) 無袋栽培では、果面全体に果点間コルクが形成され赤ナシのような外観となる。有袋栽培では、果点間コルクの形成がほとんど見られないが、一部の果実で部分的に果点間コルクが形成され、さびのように見える果実も確認される（図2、3）。

2 期待される効果

- (1) ナシ「甘太」の適期収穫が可能となり、品質の向上、均一化に寄与する。

3 適用範囲

- (1) 県内ナシ産地

4 普及上の留意点

- (1) 収穫に当たっては、地色指数や食味を総合的に判断し、収穫が遅れないように注意する。
- (2) 有袋栽培の場合は、収穫後の果実を25℃で貯蔵した際の果実重の減少率が、無袋栽培と比較して大きいことが確認されているため（岩谷ら、2020）、貯蔵する際は日持ち性に注意する。

II 具体的データ等

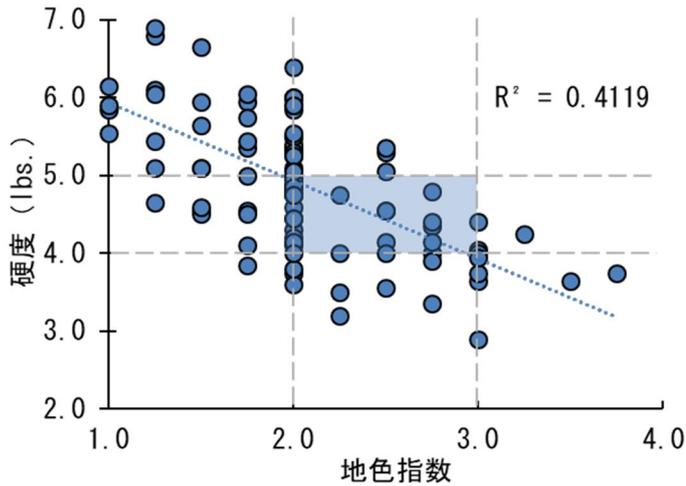


表1 ナシ「甘太」の果実品質
(満開後165~175日の平均)

調査年	栽培方法	果実重 (g)	硬度 (lbs.)	糖度 (° Brix)
2023	無袋栽培	511	4.8	15.9
	有袋栽培	429	5.4	16.6
2024	無袋栽培	598	4.4	15.1
	有袋栽培	567	5.1	16.2

図1 地色指数と硬度の関係 (無袋栽培)

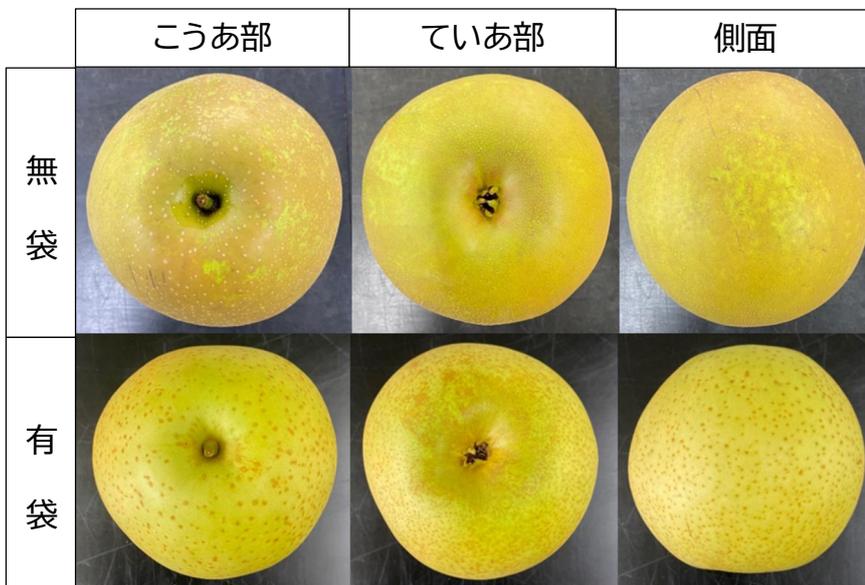


図2 ナシ「甘太」の果実の外観



図3 ナシ「甘太」の有袋栽培による部分的な果点間コルクの形成

III その他

1 執筆者

佐藤寛人

2 成果を得た課題名

(1) 研究期間 令和3~7年度

(2) 研究課題名 温暖化に対応した果樹の生育予測技術及び生育障害対策技術の確立

3 主な参考文献・資料

- (1) 岩谷章生ら, ニホンナシ「甘太」はパラフィン処理した遮光率30%程度の果実袋を早期に被袋することにより糖度が上昇する, 熊本県農業研究センター研究報告, 27号, p.32-39, 2020.